

お茶の水女子大家政 松村真木子

目的 現代イギリスの中流家族の現状を、夫婦関係の変化を中心に明らかにする。先進諸国において、女子就業率が、M字型を示すのは、イギリスと日本のみである。そのため、現代イギリス女性の結婚観、就労への意欲、子供に対する教育観を明らかにすることを目的とする。

方法 面接調査および、質問紙留置法による調査を実施。調査期間は1991年9～10月。調査地域 ロンドン郊外（中産階級住宅地）。調査対象は、12才以下の子供が少なくとも一人いる夫婦。面接は、合計59人、（夫婦18組、夫のみ3人、妻のみ20人）。質問紙回収率 52%、有効票数 90票、（夫婦41組、夫のみ1票、妻のみ7票）。

結果 (1) 結婚形態の変化 ①同棲の増加により、法律に基づく婚姻関係の社会的意義が薄くなってきている。②離婚、婚外子が社会的に容認されつつある。(2) 妻の就労の変化 ①妻は末子就学後、資格を生かせる仕事に就き、社会参加する傾向ができてきている。②夫は、妻が仕事を持つことに積極的に賛成し、援助を与えている。③妻は、所得の増加よりも社会参加を目的に就労している。④家庭を第一に考えているため、パートタイマーで満足している。⑤妻の社会参加を支える社会的なサポートシステムとして、ナニー（養育係）、オーペア（外国人子守り）の制度の存在が大きい。(3) 育児の変化 ①子供に高等教育を受けさせることを望むようになった。②女子には、特に、高等教育を、男子には、生活能力を身につけることを望むようになってきている。